

## 「縄文人のムラとマツリ」

### はじめに

弘前市内には、令和元年10月現在で456か所の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が登録されており、そのうち約340か所の遺跡が縄文時代の遺跡（別の時代と重複している遺跡を含む）となっています。これまでの弘前市内の発掘調査成果から見てきた、縄文時代の人々の暮らしに使われた道具について、どのようなものが使われていたのか今回の展示でお見せします。

### ムラの暮らし

縄文時代の人々が主に生活していた場所は、地面を掘りくぼめてから柱を立て、屋根をかけた竪穴建物です。竪穴建物跡からは、炉跡が見つかることが多く、また使用していたと考えられる土器や石器などが出土することも多いです。また、ムラには、狩猟や採集で獲得した食料を貯蔵するための貯蔵穴が造られることがあります。この貯蔵穴の中には、断面が三角フラスコの形をしたフラスコ状土坑と呼ばれるものもあります。時期によっては、ムラのなかに墓が造られることもあります。当時の墓は、地面を掘りくぼめて遺体を埋葬する土壌墓と呼ばれるものが主にみられ、その他に石で囲われた石棺墓、子どもの墓として土器を棺にして埋葬することもありました。

### ムラの道具—縄文土器—

縄文時代のムラの暮らしのなかで、一番使われていたものが縄文土器です。縄文土器には、大きなバケツのような形をしたものや、皿のような形をしたもの、香炉の形をしたものなど様々な形をしたものがあり、中には赤く色が塗られたものもあります。

土器の器種や文様には、時期によってパターンがあります。早期の土器は、底が尖った土器がよく作られ、前期・中期になると厚手でシンプルな円筒形の土器が作られます。後期以降になると薄手の土器が増え、細かな装飾が加えられるようになります。

このような土器の特徴をヒントに、その土器がいつ頃のものなのかを判断することができます。

### 縄文土器の使い道

土器には、深鉢や鉢、壺、浅鉢、皿、注口土器などの器種があります。深鉢や鉢は煮炊きや貯蔵に使われていたと考えられます。煮炊きに使われていた土器には、ススやコゲが付いているものが多くみられます。煮炊きができる土器が作られたことで、食べられるものが格段に増えました。

壺は貯蔵に、注口土器は液体を注ぐために、浅鉢や皿の多くは食事や儀礼の際の盛り付けに使われていたと考えられます。

### ムラの道具—石器—

縄文時代は金属がない時代であり、石器は生活の必需品でした。身近にある石がすべて石器の材料となるわけではなく、鋭い刃をつけるために、縄文人は使う石材を選び、場合によっては遠くから石材を入手し、石器を作っていました。

石器には、石鏃や石槍などの狩猟に使うもの、石匙や石皿、磨石、敲石などの食料の加工に使うもの、スクレイパーや石篋、石錐など毛皮を利用するために使うもの、磨製石斧など木の伐採に使うものなど様々な種類があります。

## マツリの風景

縄文時代のマツリの痕跡のうち、弘前市内では大森勝山遺跡の環状列石が有名です。環状列石は、付近を流れる河川から採取したと考えられる石材を約 1,200 個用いて 77 基の組石を環状に配置して造られています。そのほか、薬師遺跡では盛土遺構が確認されています。これらの遺構からは、実用的な道具とは考えにくい土偶などの土製品や石製品が出土することが多く、これらの道具が用いられたマツリが行われた場所であると考えられます。

## マツリの道具

マツリの道具には、土偶や土版、動物形土製品ミニチュア土器などの土製品や石棒、石刀などの石製品があります。土偶は、人の形をデフォルメした土製品です。弘前市内では、独狐七面山遺跡や薬師遺跡などで出土しています。動物形土製品では、国重要文化財にも指定されている十腰内（2）遺跡出土の猪形土製品が有名です。

石棒や石刀では、弘前市内の遺跡では紙漉沢遺跡や湯ノ沢遺跡で出土事例があります。円盤状石製品は、大森勝山遺跡から 200 点以上出土しています。環状列石周辺から出土したものが多く、具体的な用途は不明ですが、環状列石でのマツリに関わる遺物と考えられます。

## おわりに 一縄文人のムラとマツリの風景一

調査では、竪穴建物跡や土坑などの遺構のほか、縄文土器、石器などの生活に関わる痕跡が多数見つかります。縄文時代の人々は、竪穴建物で暮らし、石器などを用いて狩猟・採集を行って生活をしてきた様相が出土遺物から分かります。弘前市内の遺跡からは銚などはみつかりませんが、他の遺跡の事例をみると、漁労も行っていたことが分かっています。

マツリの痕跡には、大森勝山遺跡の環状列石が弘前市内では最も著名ですが、その他にも墓や盛土遺構などが縄文時代の祭祀に関わる遺構とされており、弘前市内でも調査により確認されています。縄文時代の人々は、それらの遺構を構築するとともに、土偶などの土製品や石棒、石刀などの石製品を作り、マツリを行っていたと考えられます。土製品のなかには、十腰内（2）遺跡出土の猪形土製品のように造形的にも優れた製品が出土することもあります。

今回の企画展は、開発に伴い失われてしまう遺跡の記録を保存するために行われた、これまでの発掘調査の成果をまとめたものです。今回の企画展を機に、弘前市の歴史や遺跡について関心を持っていただき、文化財保護へのご理解・ご協力を賜れば幸いです。

\*\*\*\*\*

### 【展示に関するお問い合わせ先】

弘前市教育委員会 文化財課埋蔵文化財係（岩木庁舎3階）

〒036-1393 青森県弘前市大字賀田一丁目1-1 TEL 0172-82-1642（直通）